



作品展示

展示会場には2日間で延べ4千人が来場。子どもの成長を感じさせる力作に感嘆の声が上がっていました。

第57回 日本伝統工芸展



国内最大規模の工芸公募展で今回57回目を数える「日本伝統工芸展」で、上野焼渡窯の渡久兵衛さんと仁さんが2年連続となる親子入選を果たしました。この工芸展は、日本の優れた伝統工芸の保存と後継者育成を目的として、日本工芸会が開催。陶芸部門に1121点もの応募がある中、厳しい審査を経て朗報がもたらされました。渡窯11代目の父・久兵衛さんは茶陶の趣深い「上野鉄釉一重口水指」を、子・仁さんは上野の品格が漂う「上野ヤケ釉壺」を出展。400年を超える伝統から生み出され、今日まで脈々と伝えられた技と美が、全国で高い評価を受けました。

traditional craft

visiting facility

先進的な教育環境の開発と導入を目的とした韓国教育環境研究院のメンバー30人が、11月9日に市場小と上野小を訪問しました。カメラやメモを片手に学校の隅々まで見学した研究員は、特に日本が世界に誇る耐震技術やエゴ設備に興味深い様子で、説明する内容にじっと聞き入っていました。機能的な校舎だけでなく、児童の様子にも関心が寄せられ「子どもたちをより良い環境で学ばせたい」という共通の思いを確認。日韓交流を推進している福智町での今回の訪問を通じて、両国のさらなる教育環境の向上と積極的な国際交流が期待されます。



校内の様子を記録する韓国の研究員

交流深まる韓国から研究員が市場小・上野小を訪問

韓国教育環境研究院教育施設視察

タウントピックス & ニュース in FUKUCHI

public auction

滞納者から差し押さえた物品を販売する「公売会」が、10月23日に福岡県飯塚総合庁舎で開かれました。福智町も参加し、筑豊地区の3市3町による初めての試みです。230人が訪れた会場には、新米・陶器・貴金属が並ぶなど、それぞれの品が反響を集めました。当日出品された191点のうち、120点が落札され、売り上げは約99万円。福智町の物品にも16点中10点に買い手がつき、滞納町税の解消につながりました。今回のように、滞納すれば財産が差し押さえられかねません。大切な品が公売されないためにも、税は納期限内に納付してください。



貴重な物品も立った会場

滞納町税解消のため福智町も参加し初開催

筑豊地区合同公売会

母校に感謝の気持ちを込めて寄贈



古希を迎えた方城中同窓生のみなさん

70歳の古希を迎えたことを記念した方城中第9期卒業生(昭和31年卒)の同窓会が10月24日に開かれました。直方いこいの村に80人が集ったこの日「自分たちを教え、導いてくれた母校に恩返しをしたい」と発案した記念品を母校に寄贈。方城中には TENT 一張、伊方・弁城の両小学校には図書券が、感謝の言葉を添えて贈られました。同窓会には2人の恩師も参加。4時間半におよぶ宴は、当時に思いをはせたり、これまでの人生や近況を語り合うなど、終始盛り上がりを見せました。最後は炭坑節でしめくくり、参加者には歩数計が配られ、恩師にはつえが贈呈されました。

祝古希記念方城中第九期同窓会

alumni association

「ジ」 ユーツという音と食欲をそそる香りが漂う中、出店者の呼び声や来館者のにぎやかな会話が響いた文化祭会場。11月6日から2日間、公民館金田分館と金田体育館の前には、露店やバザーなどの特設テントが並びました。およそ4千点の作品が飾られた両館内には、目ごろ培った感性が表された成果が勢ぞろい。パラエティーに富んだ力作が見る人の足を止め、その世界へ引き込んでいました。

2010 福智町文化祭  
まちを彩る  
文化の祭典

音の花火で開幕が町中に知らされ、オープニングセレモニーから華々しくスタートした福智町文化祭。11月6日から3週にわたり、町は福智のアーティストたちによる多彩な文化に彩られました！



イベントは商工会が企画し、初開催の「ちくまる君とのお絵かき大会」には38人が参加。露店やお茶席、手芸体験などの催しも大盛況でした。